



夫婦道

「反省は猿にでも出来る」というCFが一時期はやったこともあったが、人間は反省しない、猿にもとる生き物である。反省してこそ人間なのだ、ということを含意しているのであろう▼最近、大いに反省させられるきっかけが、元JA熊本県中央会副会長の吉田照さんからいただいた『道くケアメン(男の介護)の歌』なる本である。奥さんを介護する中での思いを中心に短歌でつづつたもので、このほど自費出版された。「苦勞かけた妻への恩返しこそ人の道だと思ひ接している。介護を通して夫婦の残された人生で愛を見直す機会にもなった。妻は私を修行させる天使だと思ふ」と述べておられる。そして心を揺さぶる珠玉のような作品が並ぶ▼「朝夕につれに寄り添いしみじみと わかる夫婦の愛の深さを」「足腰の弱らぬようにと念じつつ つれの手を引き歩く幸せ」「いみじくもいたわって知る夫婦愛 ケアメンも亦有難き哉」なんというやさしさ、深い思いやりであることか。「一筋に寄り添う夫婦道 悔いない愛で我が残生を行く」▼なるほどこれは「夫婦道」なんだ、一朝一夕にはできない、いや生涯かけてもかなわないかもしれないが、求めながら歩いていくべき道であることを感得させられた次第。この夫婦道は協同組合運動の出発点でもあるのではないか。農業情勢に加えて協同組合を詠んだ歌も含まれる。「人と農 地域を愛する理念こそ 誇れる組織の運動の原点」まさに吉田さんらしい協同組合観が表現されている。JA自己改革には「愛」が欠かせないことを教えてもいる。(土着菌)